

編集室から 羽田空港から飛行機で約1時間。熊野古道や南方熊楠などで知られる紀州和歌山を上空から見下ろすと、見渡す限り海と山が広がり、人々が美しい自然に囲まれて暮らしていることが分かります。街なかで、道案内をしてくれた小中学生に天神崎について尋ねると、「ナショナル・トラストでしょ、学校でよく行くから知っているよ!」とすぐに返答がありました。子供たちはすでに、周りに息づくさまざまな生きものの存在や、自然の豊かさについて感覚で知っています。昨年、私が講師役を務めた環境教育プログラムでは、それがどれだ

け貴重で大切に、再発見してもらいたいという思いで授業に臨みました。「生物多様性」という大きなテーマを扱うことに不安もありましたが、映像を活用した授業は、感性豊かな子どもたちの五感を刺激したように思います。私が投げかける質問に対して集中して考え、自分たちの言葉で生き生きと発言する姿が印象的でした。このプログラムは全国各地のナショナルトラスト地で行うことができます。次世代を担う子どもたちに向けた、効果的な環境教育の手法の一つとして取り組みを拡大していきたいと思っています。(編集室A.I.)

表紙のトラスト地紹介

サクラソウ・トラスト(埼玉県)

サクラソウは、4~5月に花を咲かせる多年草で、その名前は花びらの形が桜に似ていることに由来します。かつては全国的に自生していたサクラソウは、度重なる開発などの生育地の環境変化により数が激減し、埼玉県では、国の特別天然記念物に指定されている「田島ヶ原サクラソウ自生地」以外では絶滅したと考えられていました。

ところが1990年、荒川の支流・江川の湿地帯で、サクラソウの自生が確認されました。近年の開発で育成環境が失われる恐れがあったため、県内で活動していた(財)埼玉県生態系保護協会は地権者との間で湿地を保全する協定を交わし、サクラソウ・トラストを発足させました。2008年には同協会と連携する地元のNPO法人エンハンスネイチャー荒川・江川がナショナル・トラスト活動助成を受けて、1,210㎡のサクラソウ生育地を取得。サクラソウが咲く環境を維持するための草刈りなどの活動は、多くの市民ボランティアにより支えられています。

今後はこのトラスト地を足がかりに、サクラソウ自生地の公有地化や保護地域の指定などを目指した取り組みが期待されています。



トラスト地に咲くサクラソウ

**食卓からエコ!
かんたんエコレシピ**

野菜の皮は剥いたら捨てるのがあたりまえ、と思いませんか? 野菜を最後までしっかり活用して、1人前から作れる簡単エコレシピをご紹介します。

エコチャーハン

ポイント

「野菜の皮も立派な食材に」
普段は剥いたら捨ててしまう野菜の皮や、辛みの多いネギの青い部分も美味しいメニューに早変わり。食材を残さず活用して家計にもやさしいエコなメニューです。



調理時間の目安 5分

- 材料(1人分)
 ご飯…………… 200グラム
 人参の皮…………… 1本分
 ネギの青いところ… 少々(2~3センチ程度)
 卵…………… 1個
 サラダ油…………… 大さじ1
 醤油…………… 小さじ1
 塩・コショウ…………… 適宜

作り方

- 1.よく洗った人参の皮をせん切りにし、ネギの青いところは小口切りにしておく。卵はほぐしておく。
- 2.フライパンを熱し、サラダ油を入れ人参とネギを入れて炒め、卵も加えて炒める。
- 3.温かいご飯を加えてよく炒め合わせ、醤油を回し入れ塩コショウで調味する。

(出典)農林水産省 めざましごはん



シンジロ & M7セル

三井住友信託銀行の
キャラクター
シンジロ&タクセル

With You活動のより詳しい情報は、
WEBサイトでも紹介しています。
<http://www.smtb.jp/csr/withyou/>

With You支店ブログ
<http://branchblog.smtb.jp/>



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



With You

2012年度社会貢献活動レポート vol.4

- Special Topic
ナショナル・トラスト活動の草分けの地 天神崎を訪ねて
- 支店活動紹介
大宮・大宮駅前支店 新潟・新潟中央支店
芝営業部 松山支店
- トラスト地紹介
サクラソウ・トラスト(埼玉県)



ナショナル・トラスト活動の草分けの地 天神崎を訪ねて

三井住友信託銀行は、金融商品の販売や社会貢献活動など、さまざまな形でナショナル・トラスト活動を応援しています。弊社経営企画部 CSR担当部長の金井 司がナショナル・



トラスト活動草分けの地、天神崎を訪ね、現地で活動を続けている玉井 済夫さんに話をうかがいました。

和歌山県田辺市にある風光明媚な岬の天神崎。1987年に全国で初めての自然環境保全法人、つまりナショナル・トラスト法人第1号に認定された公益財団法人、天神崎の自然を大切にすることは、募金活動により土地を買い取ることで保全活動を続けている。2013年2月現在、保全目標面積18ヘクタールのうち46.3%を取得。



(左から) 玉井済夫さん、CSR担当部長 金井司

手探りで保全活動

「子どもたちの笑顔が何よりなんです」と語るのは、和歌山県田辺市の公益財団法人、天神崎の自然を大切にしようとする会理事の玉井済夫さん。その優しい表情からは想像できないほど、厳しく辛い手探りで自然保護活動を長年続けてきた方です。

天神崎に開発の話が持ち上がったのは1974年。天神崎の丘に50余戸の別荘を建てる計画が立ち上がり、当時、田辺高校の生物学の教師をしていた玉井さんのもとに田辺商業高校(現神島高校)の教員 外山八郎さんが、環境や生物などへの影響について教えてほしいと訪ねてきたのが、玉井さんがこの活動にかかわるきっかけでした。

天神崎で観察できる海洋生物は200種以上。いわば“生きた自然の教室”とも言える場所です。地元の人にとっては昔からかけがえのない憩いの場に別荘が建設されれば、海に土砂や排水が流れ込み、貴重な自然が破壊されると考えた田辺市民約40名によって、天神崎の自然を大切にしようとする会が発足しました。

大切にしようとする会は、署名活動を行って行政に要望を伝えましたが、法的拘束力がないため行政から開発を阻止してもらうことはできませんでした。それならば自分たちで土地を買い取らねばと募金をスタートし、1976年に初めて天神崎の山林の一部を購入。本

人たちは、これがトラスト活動とは知らずに、行っていたといいます。「ノウハウもマニュアルもなしにここまでやってきた」と玉井さん。

自然を体感することが最大の環境教育

天神崎の自然保護運動を始めてから今年で39年。当初からかかわっていた玉井さんにとって半生を捧げた活動です。外山さん、玉井さんをはじめとする住民の熱意が生み出した活動の結果、今でも天神崎の自然は守られています。大切にしようとする会では、自然観察教室などを開催。大勢の子どもたちが訪れ、天神崎の自然が育む生き物について学んでいます。「子どもは、自然の中でしっかり遊ぶことで本当の「人間」になれる。子どもといっても、成長の過程では、さまざまな問題や葛藤を抱えているのが普通。そんな子どもたちが自然と触れ合うことで心が楽になって人間本来の姿を取り戻していく。だからこそ、身近に自然があることが大切なんです」と玉井さん。

たくさん人が訪れると大切な自然が汚れて、壊されるのでは、という人もいますが、みんなが“来て、楽しんで、知る”ことが大切だといいます。自然に親しむことの楽しさを体感することで、地球環境を大切にしようという気持ちが芽生え、それによって次の世代に渡すことができるからです。

未来の子どもたちのために

「未来の子どもたちのために」という想いだけで続けてきた大切にしようとする会の活動ですが、順風満帆というわけではありません。会員数も約900名と最盛期の半分近くに減り、活動の後継者も十分にはいません。今後の運営などを考えると悩みはあるものの、「活動を開始したころのことを思えば、今の安定した状況は夢のようだ」と玉井さん。

天神崎全体の経済的価値について尋ねると、具体的にはよくわからないといいつつも、「自然はいったん破壊されると修復困難。未来の子どもたちのためにこの貴重な自然を残したい」との想いだけ。自然資本は使ってしまうとなくなります。天神崎の自然も失ってしまうと、お金の面でも憩いの面でもマイナスになります。地元の方たちの血のにじむような努力で成り立っているこのナショナル・トラスト活動。三井住友信託銀行としても応援していきたいと考えています。



玉井さんから天神崎の生きものについて学ぶ子どもたち



Green TV <http://www.japangreen.tv/>

映像を活用した環境教育を天神崎からスタートしました!

世界唯一の環境専門のインターネット放送局「グリーンTV」の日本版「グリーンTV ジャパン」を、三井住友信託銀行は設立当初から支援しています。最近では、当社とグリーンTVジャパンが協働し、全国のナショナル・トラスト活動を舞台に、映像を活用した環境教育を天神崎からスタート。このプ

ログラムは学校で学んだ後、インターネットで家庭でも復習できることが特長です。2012年11月には、玉井さんの大自然の中での教育風景の映像を活用し、和歌山県田辺市立田辺第三小学校で、当社社員が講師となった授業を行いました。

支店活動紹介

環境・生きもの応援活動

大宮・大宮駅前支店

野生のいのちを育む公園づくり

～北本自然観察公園の外来植物の伐採活動に参加～



しい紅葉に包まれ、下草刈りと外来植物の伐採を行いました。想像していた以上の力仕事で、朝は厚着だった参加者たちも、途中から上着を脱ぎ捨てて作業していました。自然学習センターの方の指導のもと、のこぎりとロープを使って数人がかりでクワの巨木を切り倒したときなど、皆が汗だくに。

大宮支店と大宮駅前支店は、2012年11月、北本自然観察公園の伐採活動に合同で参加しました。北本自然観察公園は、野生の生きものにも来園者にもやさしさを実現した自然豊かな公園です。7回目の参加となる今回は、両支店の社員とその家族を合わせて総勢19名が集まりました。

「スミレが咲き、野ウサギが住める草原を復活させよう!」が今回の活動のテーマ。秋晴れ空の下、美

終わる頃にははたかたになりました。きれいに刈り整えられた草原と伐採した木の束を見ると充実感がありました。今後も生きものが暮らしやすい公園づくりに貢献できるよう、この活動を続けていきたいと思えます。



大宮支店 森本 由佳子

サクセスフルエイジング

芝営業部

日本古来の手品“手妻”に驚き、親しむ ～「シルバーカレッジ」で楽しむ江戸手妻の世界～



2012年10月より当部が開講させたのが「シルバーカレッジ」です。歴史や文化、経済、健康など幅広い分野から専門家を講師としてお招きする講座です。

2012年12月に開催した第4回のテーマは、江戸手妻の第一人者である藤山新太郎先生による「江戸文化～江戸手妻の世界～」でした。手妻とは、日本で古くから栄えた手品・奇術のこと。“手を稲妻のように素早く

動かす”ことから、この名が付けられたそうです。手妻の歴史やヨーロッパのマジックとの違いなどをお話いただいた後、江戸末期に手妻師・柳川蝶十郎がパリの万国博覧会で演じた題目「蝶のたはむれ」をご披露いただきました。紙で作った蝶々を「どうやったの!?!」と驚くような繊細な技で飛ばす実演に、会場はどよめき、拍手喝采が起こりました。

計6回のシルバーカレッジは、大好評のうちに開講いたしました。当部では、これからも皆さまの豊かな暮らしを応援する様々な取り組みを行ってまいります。



芝営業部 富澤 亜由美

環境・生きもの応援活動

新潟・新潟中央支店

緑豊かな地元の未来に思いを寄せる一日 ～「ふるさと新潟の自然を考えるセミナー」を開催～



去る2012年12月、新潟支店・新潟中央支店は共同企画セミナー「ふるさと新潟の自然を考える」を開催しました。小さな音楽会もある本セミナーは、予約受付時から大好評で、キャンセル待ち希望の方が相次ぐほど。

当日は100名超のお客さまにお越しいただきました。新潟大学の熊野孝名誉教授より「かろうじて残された新潟の自然について考える」と題した基調講演をいた

だいた後、「新潟の自然と地域経済の活性化」をテーマにしたパネルディスカッションを行いました。新潟の歴史や私たちの生活・経済と川との深いつながりについて知識を深め、「残された自然とどう向き合っていくべきか」を考えました。

セミナー終了後には、お客さまからも「便利さに流されず、自然を守っていかなくてはならない」「地元について知らないことがたくさんあり勉強になりました」など感想をいただき、私たち主催者にとっても大変意義

深い一日となりました。 新潟中央支店 大内 彰子

地域・社会サポート

松山支店

地域の安心のため、「小学生を見守り隊」! ～小学生の登校をサポートしています～



松山支店では、毎週火・木曜日に、支店のすぐ北隣にある松山市立番町小学校に通う小学生たちの登校を見守っています。「小学生を見守り隊」と名付けたこの活動は今から5年以上前にスタートし、現在では、当店財務相談課の社員が交代で行っています。

朝7時40分から8時までの20分間という短い時間ではありま

すが、社員が自分たちで当番を決め、見守り隊腕章を付けて、信号を守るよう呼び掛けたり、子どもたちとあいさつしたりしながら登校を見守ります。

交通安全指導や不審者対策を目的としたこの活動は、小学生や保護者、小学校の先生の間でももうすっかりおなじみになっています。

子どもたちの健やかな成長をサポートすることは、地域との絆を深めることでもあり、私たちの取り組みがこの街の安心・安全な暮らしに少しでも貢献できれば幸いです。



松山支店 木村 秀和